

外為短観レビュー 全員参加型とは言い難い1-3月の大活況

はじめに

昨年10月以降、アベノミクス効果による円安基調が鮮明となっているが、約5年ぶりに到来した円安局面をFX投資家がどのように感じ、かつどのような投資行動を取っているのかについて、外為どっとコムが1-3月に行ったアンケート調査「外為短観」の質問項目に対する回答などから考察してみたい。

1-3月の米ドル/円予想DI推移

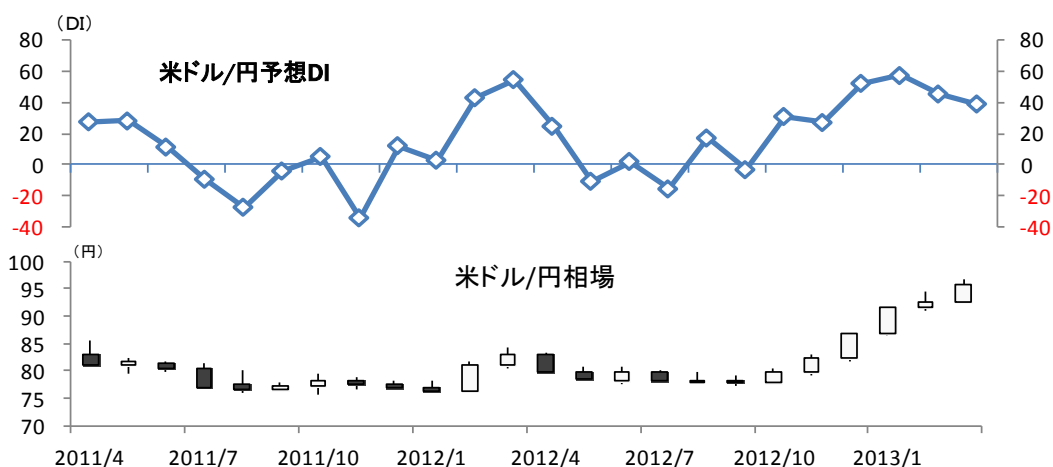
外為どっとコムは顧客に対するアンケート調査(外為短観)を毎月実施している。調査項目のひとつである「今後1か月間の米ドル/円相場の見通しは」との質問に対する回答割合から算出した米ドル/円予想DIは、昨年10月以降6ヵ月連続でプラス圏を推移しており、調査開始以来の最長記録を更新中だ。FX投資家の米ドル強気・円弱気姿勢は継続中と考えられる。中でも、今年1月の第

44回調査では、調査開始以来最大のプラス幅となる+57.1%ポイントを記録し、その回答の内訳から米ドル高・円安を予想した割合(70.7%)も過去最高を記録した(円高・米ドル安は13.6%、概ね横ばいが15.7%)。

2月に行った第45回調査における米ドル/円予想DIは+45.3%ポイント、3月の第46回調査では+38.9%と徐々にプラス幅が縮小しており、米ドル強気・円弱気姿勢にやや陰りが見える感もあるが、予想DI自体は過去の平均から見ても高水準を維持しており、FX投資家が米ドル高・円安予想に自信を失い始めているとは思えない。一部のFX投資家の間で、米ドル/円相場の大幅上昇による「高所恐怖症」的な心理が芽生えた事が予想DIのプラス幅縮小の一因だと考えている。

1-3月の米ドル/円相場の推移

1月2日、新年の取引を86.67円でスタートさせ



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

た米ドル/円相場は、途中幾度か押し目を作りつつも3月12日には96.70円まで値を上げて3ヵ月弱でほぼ10円の上昇となった。ポイントとなった主な出来事を幾つかピックアップしてみると、①1月17日、一部通信社が「日銀は次回会合(1月21-22日)で物価目標2%を目指し無制限緩和を検討へ」「次回会合では当座預金の付利撤廃を議論へ」などと報じた事を受けて90円の大打撃。②1月22日、日銀が「2%の物価目標」と「無期限緩和」の導入を発表したが「材料出尽くし感」などから88円後半に反落。③2月5日、白川日銀総裁が任期満了を待たずに副総裁の任期満了に合わせて辞任する事を表明すると、新総裁・新副総裁の下で行われる4月会合での大規模な追加緩和への思惑を絡めて円安が進行。④2月11日、日銀総裁候補の1人である黒田アジア開発銀行(ADB)総裁が「日銀は年内の追加金融緩和を正当化できる」「日銀が買える資産はいくらでもある」などと発言した事をきっかけに94円台へ上伸。⑤次期日銀総裁候補が黒田氏に絞られたとの報

道を受けて94.50円まで上昇するも、イタリア総選挙の結果が徐々に明らかになるにつれて(緊縮財政派の苦戦)、円を買い戻す動きが活発化し90.85円まで大幅反落。⑥3月8日、予想より強い米雇用統計(2月失業率7.7%、非農業部門雇用者数23.6万人増)が発表された事を受けて96円台半ばまで急騰。⑦3月12日、「日銀は臨時の金融政策決定会合を行い、追加金融緩和を前倒しで決断する可能性」との報道を受けて96.70円の高値まで上昇。と、ニュース等でも大々的に取り上げられた「日銀の金融緩和強化」が相場の主要テーマであった事が改めて確認できる。

1-3月の店頭FX市場は活況

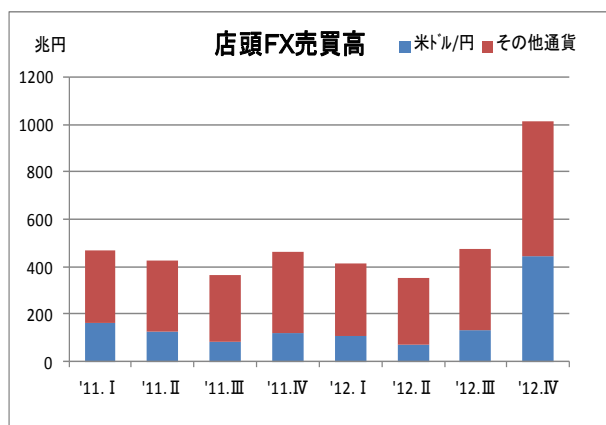
このように、2013年1-3月期は多くのFX個人投資家層にとって「予想通りに米ドル/円相場が上昇する」という絶好の収益拡大チャンスとなり、実際の取引も大きく膨らんだ。社団法人金融先物取引業協会がまとめた1-3月期の店頭FX市場



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

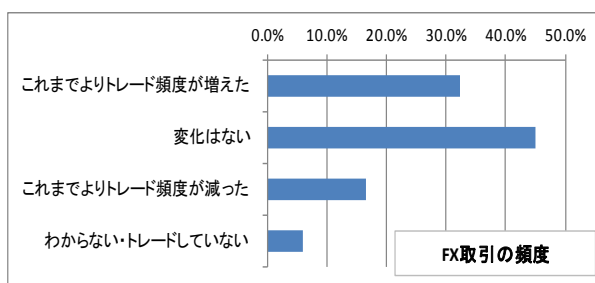
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

の売買高は1月が約345兆円、2月が約366兆円、3月は約300兆円と、合計で1000兆円超に上り、前四半期比で約115%の大幅増加となった。なお、2月の366兆円は1998年に本邦FX市場が開設されて以来、単月としては最高のボリュームであり、FX投資家らが従前に比べ積極的にFX取引に参画していた様子が示されている。また、1-3月期の全取引に占める米ドル/円の売買高シェアは約44%、金額にして約445兆円に達した。売買高は前期比で230%、前年同期比で268%という驚異的な増加率であり、1-3月期にFX投資家の売買興味が急激に米ドル/円に傾斜していった様子が窺える。こうした米ドル/円取引活発化の背景としては、①「日銀の金融緩和強化」による円先安感と、②「米国の景気回復」に伴うドル高期待に加え、③米ドル/円相場が90円台に乗せた事で、心理的な節目である1ドル=100円というわかりやすい目標値が視野に入った事も挙げられよう。



1-3月に取引を増やした投資家は3割

3月の第46回調査で、「2013年1-3月の円安相場で、これまでと比べ、FX取引の頻度に変化はありましたか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「変化なし」と答えた割合が45.0%と最も多く、「増えた」と答えた割合(32.4%)を大きく上回った。



この結果は、店頭FX市場の売買高が前期比3倍以上に膨らんだに於いては、やや意外と言える。増えた」と答えた3割の投資家で全体の売買高を3倍にするためには、大まかに言って彼らが従前の10倍近い取引を行う必要があるからだ。この調査が外為どっとコムの顧客に向けたものである点を考えると、外為どっとコムの顧客層が他の店頭FX会社の顧客に比べ取引に慎重であった可能性も否定は出来ないが、1-3月期の売買高の大幅増加については、限られた一部の投資家によるものであった可能性が高い事が下記のデータから浮かび上がる。

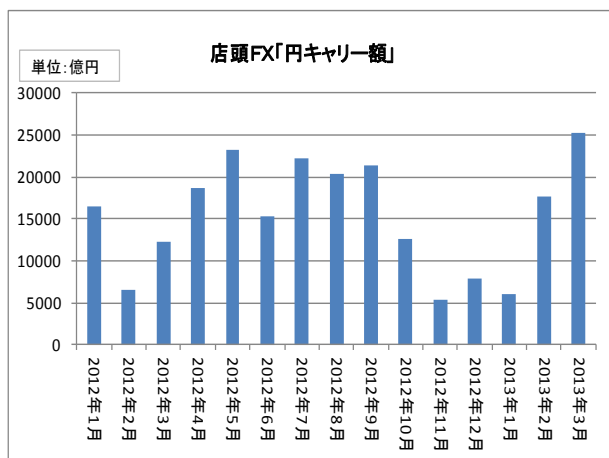
「円キャリー額」は伸び悩み

金融先物取引業協会は、毎月の売買高と同時に、円売建玉から円買建玉を差し引いた月末

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

時点におけるネットの円の売建額をいわゆる「円キャリー額」として公表している。3月の「円キャリー額」は昨年来で最高を記録したとはいえ、2兆5270億円と昨年5月の2兆3265億円をわずかに上回ったに過ぎず、1-3月期の平均残高は1兆6282億円にとどまり、四半期の平均残高としては過去最高であった2012年7-9月期の2兆1327億円に及ばない。



FX投資家の売買高が3倍以上に膨らんだ割には、この間の「円キャリー額」の増加幅は限定的であったと言えるだろう。つまり、一部のFX投資家層が、円売り・外貨買いのポジションをキャリーすることなく高い頻度で回転売買を行っていた可能性が高い事になり、相場の上昇に合わせて順回転(買い→売り)が利いた事が売買高の大幅な増加につながったと考えられる。それと同時に、中長期投資を狙った投資家層の円売り・外貨買いポジションの積み上がりは緩やかなペースでしか進まなかったと言えそうだ。

波に乗れなかった4割の動向がカギを握る

もっとも、こうした回転売買はすぐに反対売買を行うという点において中長期的な相場動向への影響はそれほど大きくない。4月の米ドル/円相場は11日に2009年4月以来の高値となる99.94円まで上昇した後、16日早朝には95.79円まで約4%の調整となっているが、こうした相場の反落に対する抑止力になり得るのは1-3月に相場の波に乗り損ねたFX投資家による「ドルの押し目買い」であろう。1-3月の「予想DI」のアンケート調査で「米ドル高・円安」を予想した向きが7割前後に達したにもかかわらず「取引頻度が増えた」と答えた割合が3割強にとどまったという事は、4割近くのFX投資家が円安を予想しながらも、円安ピッチの速さから、その波に上手く乗れなかったとも受け止められる。本邦FX市場は、今や為替市場全体に大きな影響を与えるマーケットに拡大しているだけに、本邦FX投資家による「押し目買い」は相場の下支え役として不足はないだろう。米ドル/円相場は4月に入り99.94円まで上昇したものの、節目の1ドル=100円を目前に上げ渋る展開となっている。こうした中、FX投資家による「押し目買い」の有無が米ドル/円相場の先行きを占う意味でも大いに注目されよう。(了)

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com